

発行：中央大学ボランティアセンター（多摩キャンパス6号館地下1階学生課内 042-674-3487） 発行日：2015年10月



夏休みは各地で中央大学の学生がボランティア活動をしました。被災地支援学生団体とよばれるボランティアセンター公認団体は4つあり、「はまぎくのつぼみ」岩手県宮古市(写真①)、「はまらいんや」(写真②)、「面瀬学習支援」は気仙沼市面瀬地区(写真③)、「チーム次元」は気仙沼市大島(写真④)で活動をしました。ボランティアセンター学生スタッフチーム「チーム女川」は都内で開催された女川町観光協会の手伝いに奮闘しました(写真⑤)。現地にどんなニーズがあり、いつ、どこで、どんな活動を実施するかは、学生たち自身で発見し決断します。夏休み前に現地へ一度訪問するなどして、1人よりの活動にならないように気を付けています。被災地支援活動の一環として、水産加工会社で活動する復興支援インターンも行っています(写真⑥)。

シルバーウィーク前後には、台風18号関連の水害ボランティアとして、多くの学生が栃木県や茨城県等で活躍してくれました(写真⑦)。今後もまだまだボランティアパワーが必要なので、ぜひ一度現地へ足を運んでみてください。

また、地域でのボランティア活動や広報活動にも力を入れています(写真⑧⑨)。最近では、防災活動に積極的に参加したり、多摩地域での魅力発見プロジェクトとして様々なボランティアに取り組んでいます。

夏ボラ いろいろ

2	3	4
5	1	6
7	8	9

ボランティアの現場、行ってみました

「大豆プロジェクト」

場所： 日野市・セツ塚ファーマーズセンター(最寄は日野駅)
協力団体： NPO法人めぐみ、日野市役所・産業振興課

納豆、豆腐、醤油、味噌・・・、和食をしっかりと支えてくれている大豆。皆さん、大豆の国内自給率をご存知ですか？何と僅か5%、95%が輸入です。そんな中、「遺伝子組み換えでもなく、安全で安心な大豆を子どもたちに食べさせたい！」と、地元の方々が中心に、2003年からスタートしたものが大豆プロジェクトです。

ボランティアセンターとしては、9月に初めて学生4名と一緒に参加しました。「今回は除草作業のみでしたが、自然と触れ合う機会が少なくなっている僕にとっては楽しい時間でした。ボランティアには、小学校の教師やNPOの代表を務めている方など様々な方々が参加しています。作業中や作業後にも普段は聞けない様々なお話を頂き非常に有意義な時間をおくらせてもらいました。大学外の活動では、普段は関わりの無い方とも交流する機会が得られます。ぜひ大学外にも人脈を作りたい方、農作業に興味のある方は奮ってご参加ください。」(レポート: 宮澤拓也くん 商3)

次回は、10月17日(土)9時～ 皆さんともしご参加、待ってます！



ボランティア・ 参加者募集！

※詳細・申込は
ボランティアセンターへ

◆ 夢ふうせん防災バザー

障がい者施設の「夢ふうせん」後援会が主催する防災訓練&ミニバザーの運営手伝いです。

日時： 10/25日 9時～

場所： 夢ふうせん(最寄は豊田駅)

◆ グリーン大作戦・秋の陣

今回は、程久保の自治会の皆さんと一緒に清掃・草刈りを行う予定です。普段お世話になっている地域をキレイに！

日時： 11/29日 8:50集合

場所： 中央大学正門周辺

◆ ボラカフェ・神無月編

ボランティアについて、いろんなテーマで気軽に話す場、ボラカフェ。10月は、いろんなテーマを設けて、それについてざっばらんに話しましょう。誰でも大歓迎！一緒にランチ&お茶をしながら、ほっこりするような時間を過ごしましょう。お茶とお菓子も準備してます♪

日時： 10/7水(テーマは環境)、

10/14水(テーマは子ども&福祉)、

10/21水(テーマは被災地支援)、

10/28水(テーマはまちづくり) いずれも12:40～13:10

場所： グループカウンセリングルーム(5号館地下1階)

教えて！ チュー王子！



ボランティア応援
マスコットキャラクター
チュー王子

Q. 公務員志望者です。「ボランティアをしておくといい」と聞いたのですが、そのところどうですか？

たくさん聞く声だね。「ボランティア」を募集しているNPOなどの団体は、行政の手が回らない社会課題に向き合っている場合が多いのだ。君が行政マンを目指すなら、市民と行政がどう協力して社会課題に取り組んでいるのかを知ることが重要かもしれないね。ぜひゲンバに出て、色々勉強してほしいのだ！

編集後記

今回が初めての発行となる『CVCだより』。ボランティアセンターって何？ボランティアセンターって何をするとこ？もっともっと皆さんに知ってもらいたく、年に数回の発行を目指して行く予定です。よろしくお付き合いください！

「ボランティア」って、やったことがない人にはどうしても敷居が高い。いやいや、実際にやってみるとなーんて学びが深い、癖になるものですよ！結局は皆、楽しいから、刺激になるから、出会う人が面白いから。もちろん、この積み重ねが社会を変える小さな一歩となるのですが、多くの人にとっては継続理由はそんな感じ。ぜひとも一緒に、学びの場へGOです！

★メーリングリストへ参加しませんか？

参加希望者は、名前・学籍番号・メールアドレスを書いて、件名「ML参加希望」として下記へ。
chuo_volunteer@tamajs.chuo-u.ac.jp

『ぼらせん』のひとりごと

ボランティアセンター長

中澤秀雄・法学部教授

※ボランティアセンターの
運営委員会の先生方による、
リレーコラムです。



「ファシリテーションの知」

ボランティアセンターに関わるようになって、ファシリテーション(場の舵取り)の知を意識するようになった。学生の現場での学びは、外挿的に与えられる教壇用語ではなく、自ら紡ぎ出される生きた言葉によって反省されて初めて、身体に裏付けられた知恵に転ずる。

つい「教え」たくなってしまふ、お喋りな教員にとって、新たな挑戦と勉強である。そんなことを先週末の日本社会学会セッションで喋ったら、意外と好評だった。ボラセンの活動は、学問の最前線とも繋がっている。関係者の皆さん、頑張りましょう。(N)